

投与経路の変更

オピオイドを内服薬から注射薬へ、貼付剤から内服薬へなどと投与経路を変更することがある。この時、オピオイドスイッチングを伴うこともある。剤形変更が伴うため、剤形に応じた換算量と投与方法（切り替え前の薬と後の薬の時間間隔など）に注意を要する。

投与方法については以下の表を参考に行う。【参考文献】医療用麻薬適正使用ガイダンス

先行（薬）	変更（薬）	変更方法
MS コンチン錠 オキシコドン徐放錠 NX タベンタ錠	オキシコドン徐放錠 NX タベンタ錠 ナルサス錠 アンパック坐剤 オピオイド持続皮下注・静注	先行薬の最終投与の 12 時間後を目安に変更薬を開始する
	フェントステープ デュロテップ MT パッチ	先行薬と同時に貼付し、次回より変更薬のみ
ナルサス錠	オキシコドン徐放錠 NX MS コンチン錠 タベンタ錠 アンパック坐剤 オピオイド持続皮下注・静注	先行薬の最終投与の 24 時間後を目安に変更薬を開始する
	フェントステープ デュロテップ MT パッチ	先行薬の最終投与の 12 時間後を目安に変更薬を開始。 次回より変更薬のみ
アンパック坐剤	オキシコドン徐放錠 NX MS コンチン錠 タベンタ錠 ナルサス錠 オピオイド持続皮下注・静注	先行薬の最終投与の 8 時間後を目安に変更薬を開始する
	フェントステープ デュロテップ MT パッチ	先行薬の最終投与と同時に貼付し、次回より変更薬のみ
オピオイド 持続皮下注・静注	オキシコドン徐放錠 NX MS コンチン錠 タベンタ錠 ナルサス錠 アンパック坐剤	変更薬の開始 2 時間後を目安に先行薬の減量～中止
	フェントステープ デュロテップ MT パッチ	貼付 6～12 時間後を目安に先行薬の減量～中止
フェントステープ デュロテップ MT パッチ	オキシコドン徐放錠 NX MS コンチン錠 タベンタ錠 アンパック坐剤 ナルサス錠	先行薬を剥がして 12 時間後を目安に変更薬を開始
	オピオイド持続皮下注・静注	先行薬を剥がして 6 時間後に予定の半分の投与速度で変更薬を開始。12 時間後に予定投与速度にアップする

オピオイド鎮痛薬の換算量の目安

経口剤	MS コンチン錠	<30mg	60mg	90mg	120mg	180mg
	オキシコドン徐放錠 NX	<20mg	40mg	60mg	80mg	120mg
	トラマドール塩酸塩 OD 錠	<150mg	300mg	400mg (最高用量)	初回は 25mg/回を眠前または頓用で	
	タベンタ錠	<100mg	200mg	300mg	400mg(初回投与量として 400mg を 超える用量は推奨されない。)	
	ナルサス錠	<6mg	12mg	18mg	24mg	36mg
貼付剤	フェントステープ	<1mg	2mg	3mg	4mg	6mg
	デュロテップ MT パッチ	<2.1mg	4.2mg	6.3mg	8.4mg	12.6mg
注射剤	塩酸モルヒネ注 (持続)	<10~15mg	20~30mg	30~45mg	40~60mg	60~90mg
	フェンタニル注 (持続)	<0.3mg	0.6mg	0.9mg	1.2mg	1.8mg
	オキシコドン注 (持続)	<15mg	30mg	45mg	60mg	90mg
	ナルベイン注 (持続)	<1.2mg	2.4mg	3.6mg	4.8mg	7.2mg
レスキュー	オブソ内服液	5mg	10mg	15mg	20mg	30mg
	オキノーム散	2.5mg	5mg	10mg	15mg	20mg
	アンバック坐薬	5mg	5mg	10mg	10mg	20mg
	ナルラビド錠	1mg	2mg	3mg	4mg	6mg
	塩酸モルヒネ注 フェンタニル注 オキシコドン注 ナルベイン注	1 時間量	1 時間量	1 時間量	1 時間量	1 時間量